



SCB

ニュース&トピックス

No.2025-52

(2025. 8. 15)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

とね かずゆき
上席主任研究員 刀禰 和之

03-5202-7671

s1000790@FacetoFace.ne.jp

信用金庫の定期積金残高

ポイント

- 2024年度末の信用金庫の定期積金残高は、前期比9.8%、30百億円減少の2兆81百億円となり、9年連続で前年度末を下回った。
- 預金残高に占める定期積金残高の割合（定期積金比率）は、2000年度末の8.3%から2024年度末には1.7%にまで低下している。
- 2024年度末の地区別の定期積金残高は、全11地区で前期比減少し、なかでも東北、東海、近畿の減少が目立った。
- 2024年度末の信用金庫別の定期積金比率は、①2%未満が46.8%、②2%～4%が45.6%、③4%以上は7.4%となった。

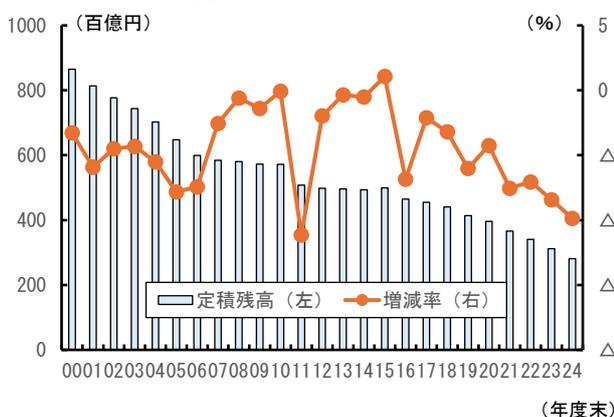
1. 全国の状況

2024年度末の信用金庫の定期積金残高は、前期比9.8%、30百億円減少の2兆81百億円となり、9年連続で前年度末を下回った（図表1）。かつては定期積金の集金活動を切り口に渉外営業を行う信用金庫が多かった。しかしながら近年の面談率低下や顧客ニーズの多様化、事業性融資を主体とした渉外営業への転換などを背景に、定期積金（の集金業務）の効率化に舵を切る信用金庫が増えている。

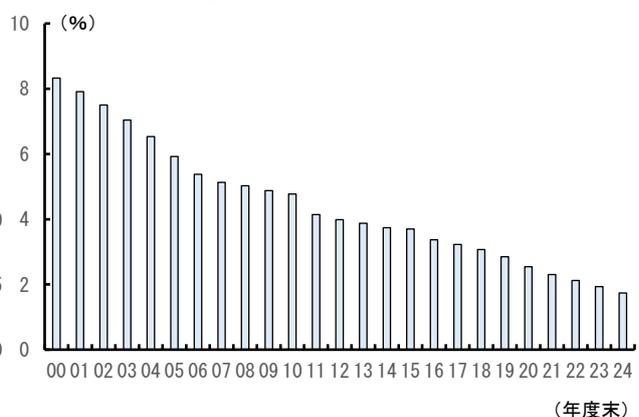
実際、預金残高に占める定期積金の残高割合（定期積金比率）も低下が続き、2000年度末の8.3%から2009年度末に5%を割り込み、2024年度末には1.7%となる（図表2）。

2024年度に入り「金利のある世界」が到来したことを受け、定期積金に再注目する信用金庫もある。ただし前述のとおり顧客ニーズの多様化や渉外営業の生産性向上の必要性を勘案すると、全体の残高が増加に転じるのは難しいだろう。

（図表1）定期積金残高の推移



（図表2）定期積金比率の推移



（備考）図表1から4まで信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 地区別の状況

2024年度末の地区別の定期積金残高は、全11地区で前期比減少し、なかでも東海(11.4%減)、東北(11.2%減)、近畿(10.5%減)の減少が目立った(図表3)。また定期積金比率をみると、南九州の2.7%が最も高く、東北の2.3%、九州北部の2.2%が続く。

なお、2000年度末との比較では、全11地区で残高が減少しており、北陸、中国、東京、関東の4地区は減少幅が7割を超えた。

(図表3) 地区別の定期積金残高

(単位：百億円、%、億円)

地区	00年度末	10年度末	20年度末	23年度末	24年度末	00年度末比		00年度末比率	24年度末比率	24年度末1金庫残高
						増減額	増減率			
北海道	33	25	20	17	16	△ 17	△ 52.0	6.2	1.8	80
東北	37	22	19	16	14	△ 23	△ 62.4	9.5	2.3	52
東京	188	126	70	57	53	△ 135	△ 71.8	9.7	1.8	231
関東	156	95	64	50	45	△ 110	△ 70.9	7.8	1.5	92
北陸	32	24	13	9	8	△ 23	△ 73.2	10.2	2.1	57
東海	189	134	96	69	61	△ 127	△ 67.5	9.4	1.7	180
近畿	142	88	71	56	50	△ 91	△ 64.4	6.8	1.5	174
中国	39	21	14	11	10	△ 29	△ 73.1	8.0	1.5	53
四国	10	10	7	6	5	△ 5	△ 47.8	6.0	1.7	55
九州北部	13	9	7	6	6	△ 7	△ 56.6	7.7	2.2	46
南九州	19	12	11	9	8	△ 10	△ 55.2	7.9	2.7	67
全国	864	571	396	311	281	△ 583	△ 67.4	8.3	1.7	110

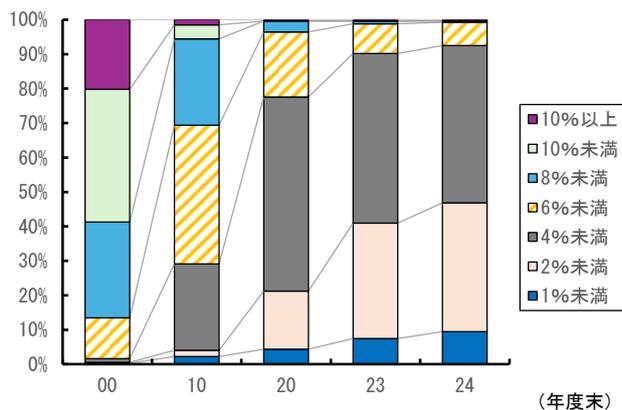
(備考) 沖縄県は全国に含む。

3. 信用金庫別の状況

2024年度末の信用金庫別の定期積金比率(構成比)は、①2%未満が46.8%(119金庫)、②2%~4%が45.6%(116金庫)、③4%以上は7.4%(19金庫)となった(図表4)。2024年度の定期積金比率は1.7%となるが、中央値を確認すると2.1%だった。また、10%以上が1金庫(所在地区：東京)あったほか、0.5%未満は7金庫(同：東京1、関東1、東海1、近畿3、四国1)となった。

2000年度末の構成比と比較すると、1%未満が0.2%(1金庫)から9.4%(24金庫)に上昇した一方で、10%以上は20.2%(75金庫)から0.3%(1金庫)にまで低下している。

(図表4) 信用金庫別の定期積金比率(構成比)



本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。